

箱根山の火山活動解説資料

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引下げ＞

箱根山では、7 月 1 日にごく小規模な噴火が発生して以降、噴火はみられず、火山性地震は少ない状態で経過しています。また、火山性微動は、6 月 29 日以降は観測されていません。地殻変動については、GNSS¹⁾観測等により、山体膨張は停止したものと考えられます。

これらのことから、本日（11 日）14 時 00 分に火口周辺警報を発表し、箱根山の噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引き下げました。

一方、地震活動は低下したものの、4 月下旬の活動活発化以前の状態には戻っていないこと、大涌谷周辺では活発な噴気活動が継続していることから、大涌谷周辺の想定火口域では小規模な噴火が発生する可能性があります。

大涌谷周辺の想定火口域では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や風に流されて降る小さな噴石や火山ガスに注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図 2～5、図 6－①）

大涌谷周辺では、6 月 29 日から 30 日の間、および 7 月 1 日にごく小規模な噴火が発生しましたが、それ以降、噴火は発生していません。

気象庁がこれまでに実施してきた現地調査及び大涌谷に設置している遠望カメラによる観測によると、5 月 3 日以降活発な状態となっている大涌谷周辺の噴気活動は、7 月はじめの噴火直後の頃よりは低下しているものの、5 月上旬頃よりは活発な状態で継続しています。

・ 地震や微動の発生状況（図 6－②、図 7）

4 月 26 日以降増加していた火山性地震は 7 月以降減少しており、少ない状態で経過していますが、4 月 26 日以前の状態には戻っていません。火山性微動は 6 月 29 日に 1 回観測されましたが、それ以降は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図 6－③～⑦、図 9）

GNSS による地殻変動の観測によると、9 月 10 日の解析結果により、4 月からみられていた基線の伸びは、8 月下旬頃から停滞し、山体膨張は停止したものと考えられます。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地学研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

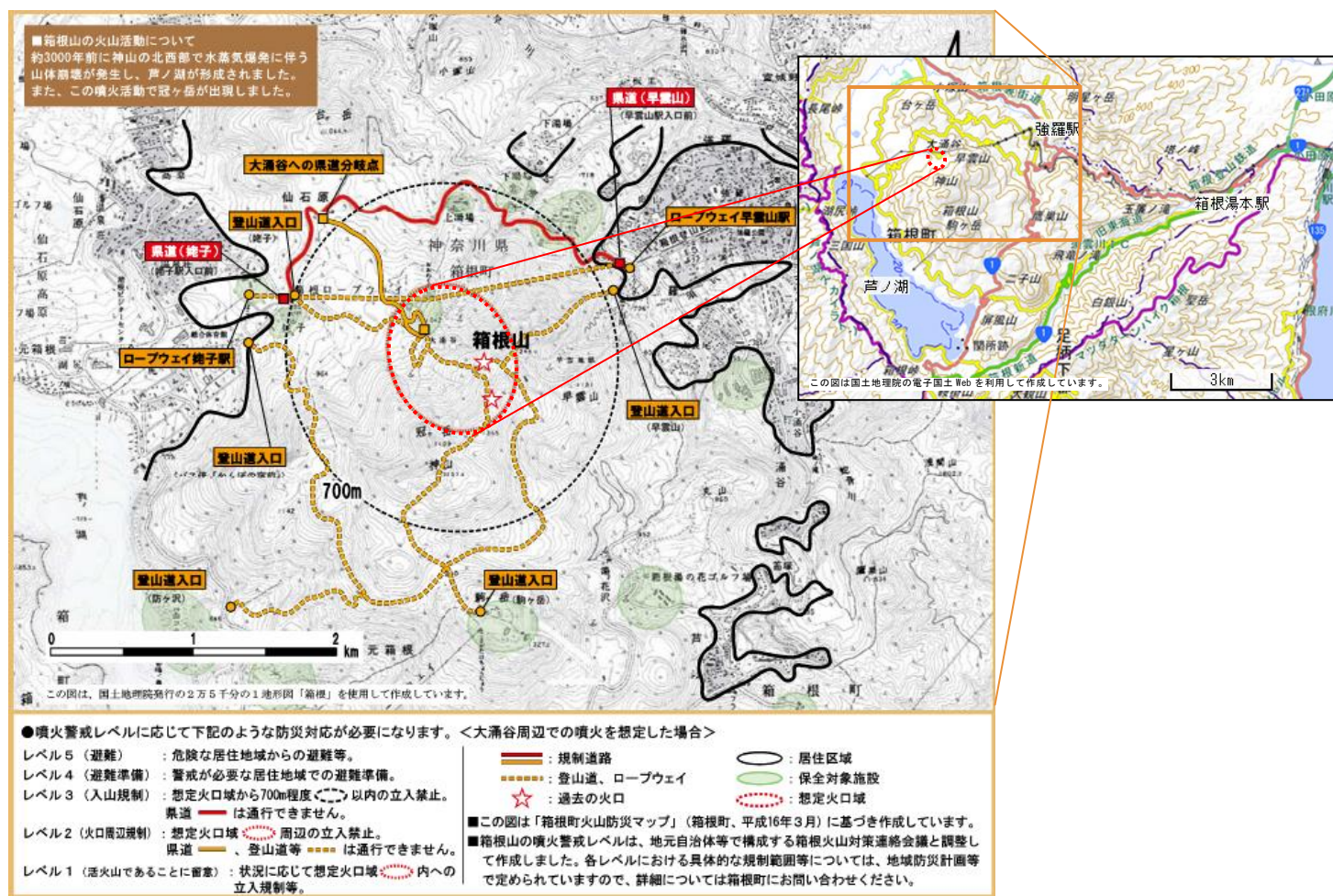


図1 警戒が必要な範囲：大涌谷周辺の想定火口域（図の赤円○内）



5 月 1 日 13 時 50 分 撮影



5 月 14 日 16 時 52 分 撮影



6 月 4 日 12 時 00 分 撮影



6 月 18 日 10 時 45 分 撮影



7 月 14 日 12 時 54 分 撮影



9 月 3 日 11 時 14 分 撮影

図 2 箱根山 大涌谷周辺の状況

- ・ 大涌谷周辺の噴気活動は、5 月 3 日以降活発な状態となりました。
- ・ 噴気活動は、7 月のはじめの噴火直後の頃よりは低下しているものの、5 月上旬頃よりは活発な状態で継続しています。



図 3 箱根山 大涌谷周辺の状況

（9 月 10 日、大涌谷遠望カメラによる）

大涌谷の火口や噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き蒸気が勢いよく噴出しています。



図 4 箱根山 早雲地獄の状況

（9 月 10 日、宮城野遠望カメラによる）

- ・ 白円内は早雲地獄からの噴気の状況。
- ・ 赤円内は大涌谷からの噴気等によるもので、時々観測されています。

気象庁の宮城野遠望カメラでは、大涌谷からの噴気は高さ 100m 以上の場合に観測されます。



図 5 箱根山 噴気場所（大涌谷・早雲地獄）位置図

緑丸は大涌谷遠望カメラ設置場所
赤丸は宮城野遠望カメラ設置場所

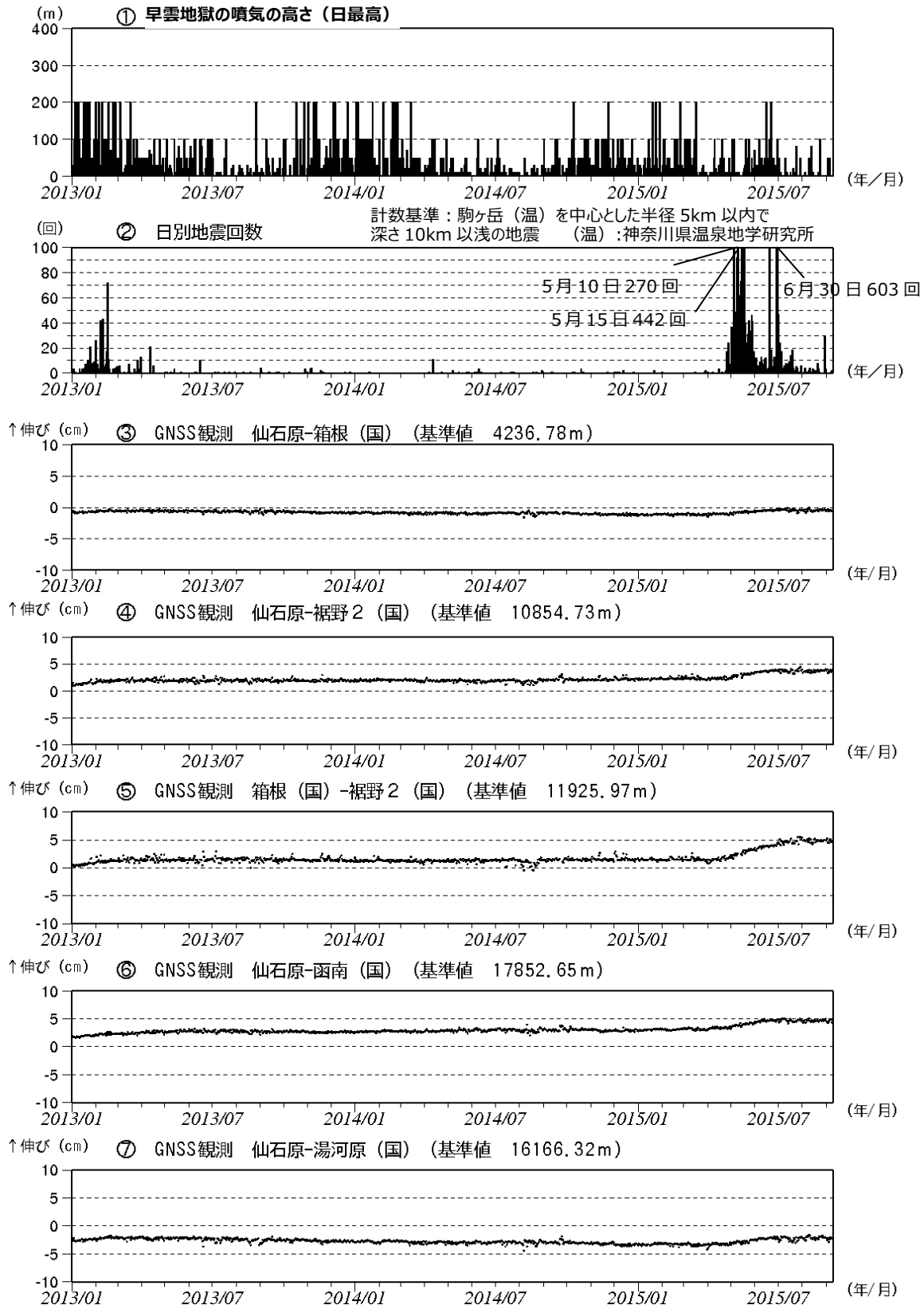


図 6 箱根山 火山活動経過図（2013 年 1 月 1 日～2015 年 9 月 10 日）

- ・ 2015 年 4 月 26 日頃から火山性地震が増加し、6 月 30 日には 603 回の火山性地震が発生しました。7 月以降減少しており、少ない状態で経過していますが、4 月 26 日以前の状態には戻っていません。
- ・ GNSS による地殻変動の観測によると、2015 年 4 月からみられていた基線の伸びは、8 月下旬頃から停滞し、山体膨張は停止したものと考えられます。なお、GNSS 基線③～⑦は図 9 の③～⑦に対応しています。また、解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っています。

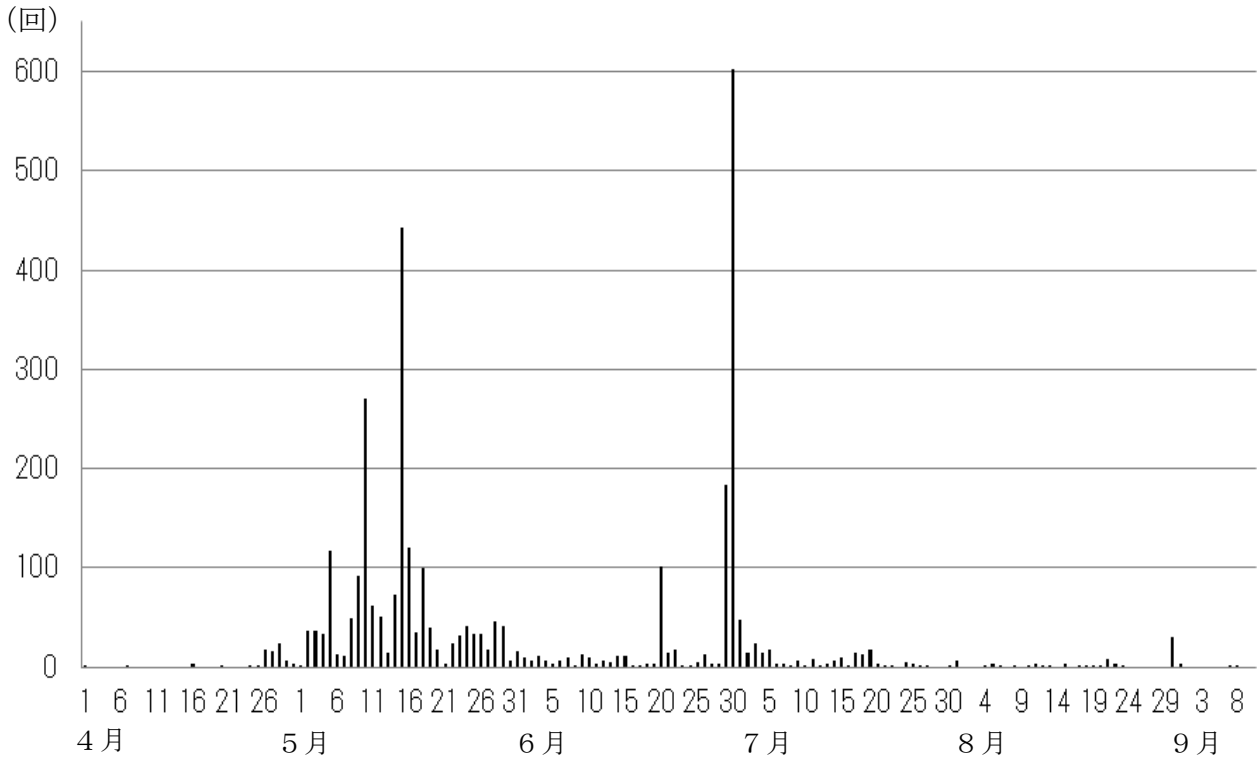


図 7 箱根山 火山性地震の日別回数（2015 年 4 月 1 日～9 月 10 日）

4 月 26 日以降、火山性地震が増加し、6 月 30 日には日回数としては 2001 年以降最多となる 603 回となりました。7 月以降減少しており、少ない状態で経過しています。

4 月 26 日以前の状態には戻っていません。

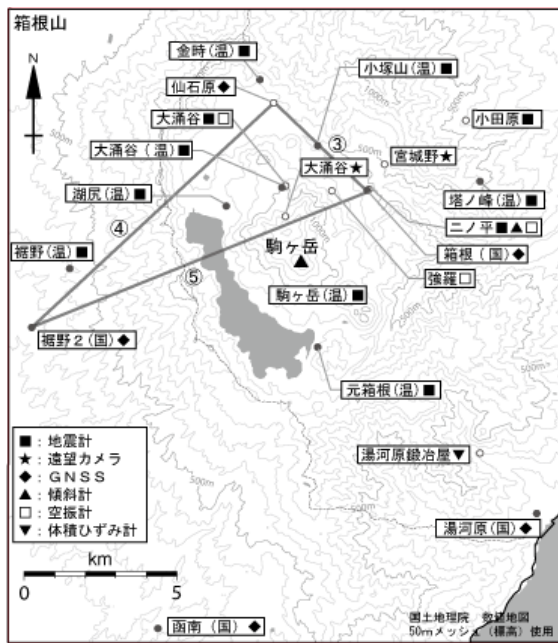


図 8 箱根山 観測点配置図

・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の観測点を示しています。

（国）：国土地理院、（温）：神奈川県温泉地学研究所
・この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しました。

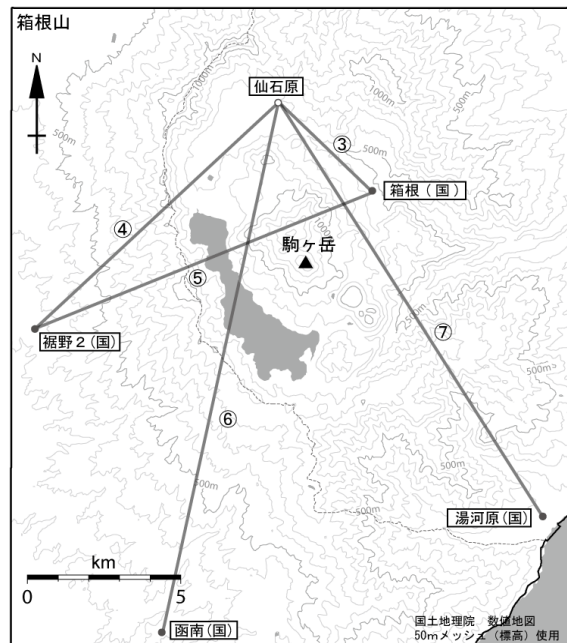


図 9 箱根山 GNSS 連続観測点配置図

・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の観測点を示しています。（国）：国土地理院、

・GNSS 基線③～⑦は図 6 の③～⑦に対応しています。
・この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しました。